



赤外

(田中一穂・加藤 学)

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『北陸新幹線
関係発掘調査報告書Ⅴ 大角地遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書一
七三・一〇〇六年)

9 関係文献

表面の冒頭部分だけ特に墨痕が薄く文字数も不明。他の墨痕は残
存具合もよく、「ゐすみ」は肉眼でも墨痕を確認できる。最後の一
文字は若干墨痕が薄い、赤外線写真では明瞭。裏面は下端部付近
に墨痕が確認される。一文字目が人偏と思われるが、二文字目以降
は文字数も確定できない。ただし、裏の下端に向けて長く垂れ下がる
字形は、「某兵衛」の可能性が高いと推測される。

「ゐすみた」を人名と考え、何らかの物品などに付けられて送ら
れ、裏面にはその差出人が記載されたと推測する。ただし、管見の
限りでは近隣の近世村落に関する人名で「ゐすみた」を名乗る人物
は見出せていない。



(糸魚川)

新潟・大角地遺跡 (2)

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大字田海
- 2 調査期間 二〇〇七年(平19)五月～七月
- 3 発掘機関 糸魚川市教育委員会
- 4 調査担当者 山岸洋一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大角地遺跡は、田海川右岸に形成された山麓の台地(洪積段丘か
沖積段丘かは不明)の標高5m前後に立地する。過去の調査において、
縄文時代前期・古墳時代中
期・平安時代の竪穴住居が
検出されており、当該期の
集落跡として知られている。
縄文時代早・前期、弥生時
代後期から古墳時代後期、
平安時代、中世、近世に及
ぶ複合遺跡である。

今回の調査はガス供給施

設建設に伴うもので、主な検出遺構は、古墳時代中・後期の土坑、古墳時代中期の竪穴状遺構などである。

木簡は、集落をはずれた西よりの谷状を呈する旧表土層から一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「□□」巻斗

(137)×25×5 081

墨痕はすべて残存していないが、文字の跡が浮き上がっている。一文字目は「四」の可能性もある。

文字の判読・写真撮影については田中一穂氏にお願いした。

9 関係文献

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ 大角地遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書一七三、二〇〇七年)



(山岸洋一)

新潟・窪田遺跡

1 所在地 新潟県村上市南田中字窪田

2 調査期間 二〇〇六年(平18)四月～二月

3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・国際航業(株)

4 調査担当者 前川雅夫

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 八世紀・一二世紀～一四世紀・一七世紀～一八世紀

紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

窪田遺跡は越後平野の北部、荒川右岸の沖積微高地に立地する。



(中条・村上)

調査の結果、一七世紀～一八世紀を中心とする河川護岸施設や漁撈施設、一二世紀後半～一四世紀前半の集落、八世紀を中心とする集落をそれぞれ検出した。木簡は、中世から近世にかけて存在した河川SR一から五点、中世の井戸(S